

令和4年度6年生  
昨年度の授業改善プランについて

**国語**⇒文章や話し合いの内容について、共通点や着目点が明確につかめるように視覚的に示す。また、視覚化したことを活用して記述したことを読み直す活動を取り入れる。そして、国語に限らず、各教科にわたり自分の意見や考えを記録する機会を設けて、主体的に取り組む態度を高めていく。

**社会**⇒課題解決のための「めあて」にそって、資料から読み取った内容から情報を整理する活動を繰り返し取り組ませていく。「学習のまとめ」にむけて、必要な情報を選択・判断する力を高めていく。

**算数**⇒基礎学力の定着を活かして、数の拡張に伴う処理やしくみの理解の徹底を図る。朝学習を使って小数の割り算を正確に解く問題に取り組ませる。また、活用する力の定着を図るため問題場面の関係を図や表で捉える活動を取り入れていく。

**理科**⇒新しい単元の導入の際に、既習事項をしっかりと捉えさせる。実験や動画などを取り入れて、既習内容が想起しやすい学習環境を整え、主体的に取り組む態度を高めていく。

## I 大田区学習効果測定の結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科			英語 B		
全体	△			▼			▼			≒			△		
観点別	△	△	△	▼	▼	▼	▼	△	▼	▼	≒	≒	△	≒	≒
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

### 1 教科全体

国語以外は、目標値を十分に上回ることはできなかった。ただ、算数・理科に関しては、基礎が目標値より低かったが、活用はどちらも上回っていた。考えを発展させることが身に付いてきているので、基礎の定着をさらに図っていく必要がある。

### 2 観点別

国語では、全ての観点において、目標値を上回る結果であった。特に【聞く】ことの力が高い。社会は資料の読み取りから課題に対し判断すること、理科は自然体験や観察を基に自然事象の理解をすることが目標値を下回った。算数は、計算方法が身に付いていないことが読み取れる。英語は、英文のリスニングや英文作りが目標値よりも下回った。

## II 教科ごとの授業改善プラン

### 1 国語・社会・算数・理科

#### 【国語】

「話し合いの内容を聞き取る」については、正答率が高い。話を聞き取る力は身に付いていることが分かる。しかし、「話し合いをもとに活動報告を書き直す」の正答率は低い。報告文などの形態に合った文章の書き方を使い分けられるようにする必要がある。

## 【社会】

「情報を生かした産業」については、唯一目標値を上回った。情報については、生活の一部であるため、身近なこととして捉えられたと考えられる。しかし、それ以外については、大きく下回っている。自分の生活との関わりを意識し、結び付けながら学習に取り組ませることが必要である。

## 【算数】

活用では目標値を上回った。身に付けた知識を応用する力が身に付いてきた。一方、普段あまり使わない計算方法や図の読み取り・作図などは、平均値が低い。何度も繰り返し行っている内容が身に付いているので、そのときだけでなく、定期的に復習を促す取り組みが必要である。

## 【理科】

全体的な正答率は、目標値とほぼ同じであった。昨年度は全ての数値が下回っていたので、成果が見られた。特に、活用は平均値を上回った。特に、生き物などへの関心度の高さがそのまま数値として表れている。一方、その他の自然事象や道具の使い方について数値が低かった。導入時に興味・関心を高める工夫と、自然事象について正しくまとめ・理解させることが必要である。

## 【英語 B】

「身近で簡単な語を聞き、その意味を理解している」という項目については、正答率が高く、単語の意味を理解していることが分かる。一方、「短い物語を聞き、話の概要を捉える」ことについては、正答率が低い。聞き取れた単語から内容を推測する力を高める活動を取り入れる必要がある。

## 2 音楽・図工・家庭・体育

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい課題に進んで取り組む児童が多い一方で、全体指導のみでは苦手意識がある児童が取り組めない。</li> <li>・器楽の練習には積極的だが、音楽記号や譜面が全く読めない児童が多い。声変わりが始まっている児童もおり、歌唱については個別の課題設定が必要である。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現           <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いをもって表現することには消極的だが、教えられた通り表現しようとしたり、どのように練習すれば出来るようになるのか考えながら取り組んだりしている。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度           <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く楽曲を仕上げようと取り組む様子が見られる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>△</p> <p>△</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自らの達成感を得られるよう、レベル別に課題を設定する。</li> <li>・ICTの活用等で個別に思いを表現出来る授業を実施する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の正しい扱い方を身に付けようとしていたり、新しい技法を知り、すすんで取り入れようとしていたりする。しかし、個人差はある。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現           <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のアイデアをもち、作品作りに取り組むことが苦手な児童が少なからずいる。</li> <li>・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することは難しい。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度           <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作や鑑賞に対して、すすんで取り組む児童が多い。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩なアイデアが生まれるように、授業の導入を工夫する。</li> <li>・作品の鑑賞については、鑑賞の観点を明確にしたり、使う語彙について指導したりして、実施する。</li> <li>・制作が困難な児童には、個別にフォローする。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科で学習したことを土台として家庭生活においても具体的に生かすことが大切であることに気付いた児童が多い。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までできている児童もいるが、活かせていない児童もいる。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことについて家庭生活中で具体的に実践し、喜びを味わえている児童が多く見られるようになっている。</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">△</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の生活に生かせる学習内容・計画を立てる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <p>運動自体が苦手な子が多かったが、昨年度から身体操作を高める体操や普段から宿題で運動を行わせたことにより、少しずつ向上している姿が見られる。また、運動のポイントについての理解を深めることで、自分の課題を明確に捉えることができている。</p> </li> <li>●思考・判断・表現 <p>運動のポイントや仕組みを見付けさせたり、考えさせたりすることで、自分の課題を明確にし、「何を・どのように」練習すればよいか、考えることが出来てきている。また、教え合う姿勢も自然と見られるようになった。</p> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <p>器械運動については、体の発達に伴い、取り組み方にバラつきが見られるようになってきた。自分の体を支えることが難しくなっている児童もいる。ただ、学年・学級全体で協力し、よりよい活動にしようとする姿勢が見られる。</p> </li> </ul>	<p style="text-align: center;">△</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>身に付けた知識を生かし、運動と結び付けながら繰り返し運動させることも必要である。5年時は思考に重点を置いたので、今年度は技能を高められるように取り組んでいく。</p>